

# 貧酸素水塊速報 (2008年)

【発行】○ 千葉県水産総合研究センター 千葉県農林水産技術会議  
 【協力】○ 神奈川県水産技術センター 内湾底びき網研究会連合会  
 千葉県環境研究センター 東京都環境局  
 第三管区海上保安本部 ○ 千葉灯標モニタリングポスト  
 国立環境研究所  
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

## 平成20年10月7日観測結果

貧酸素水塊は内湾北部にのみ分布し、南部は前回(9月29日)に引き続き貧酸素水塊が見られませんでした(図1)。また、0.5ml/L以下のほぼ無酸素水塊も規模が縮小し、分布は湾奥に限定されていました(図1,2)。しかし、三番瀬ではすぐ沖にほぼ無酸素な水塊が見られるので、この水塊の動きに注意が必要です。貧酸素水塊の規模はおよそ10%で、ほぼ例年並みでした(図3)。

海面からの冷却に伴い水温の成層構造が徐々に緩和されたため、湾奥や内湾南部では水温は鉛直的にほぼ一様となりました(図2)。今後も成層は徐々に解消されます。貧酸素化は、一時的に強まるかもしれませんが、次第に解消していくものと思われます。

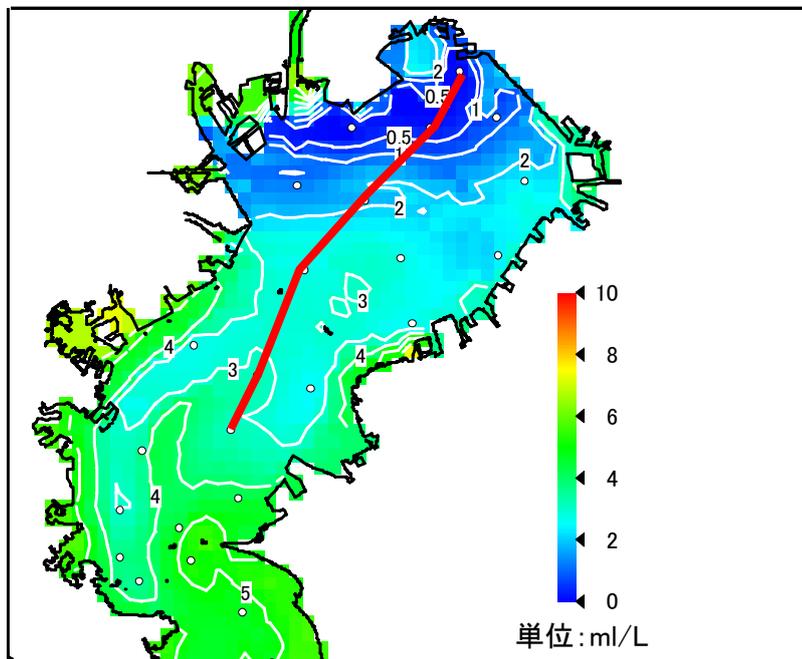


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

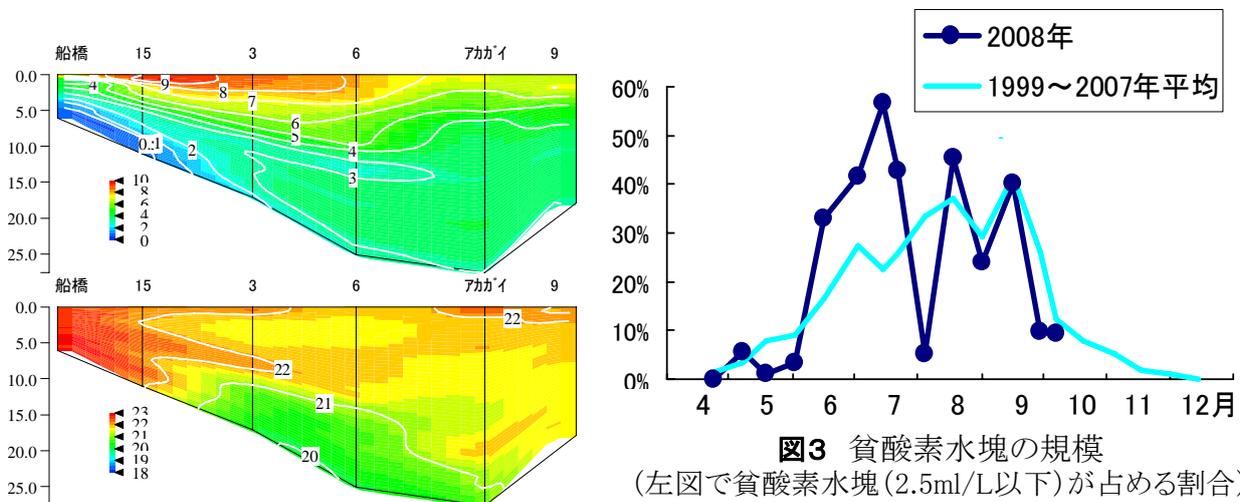


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布(上)と水温鉛直分布(下)

図3 貧酸素水塊の規模  
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)